

## 安達福太郎さん証言

### 父は中国で戦死、母は空襲で死亡、戦災孤児となる

私は安達福太郎と申します。生年月日は昭和 19 年（1944 年）11 月 12 日生まれです。



父安達保夫

父は 32 歳（大正 3 年 8 月 1 日生まれ、農業）、母は 25 歳で亡くなりました。父は自分が生まれる前に支那事変に補充兵として出征しておりましたので私の顔を見ていないのです。

1945 年 5 月 8 日（注 2）、母は、まだ生まれて 6 ヶ月足らずの私を背負って出征兵士を見送る為、浜野の駅まで行った帰りに突然現れた艦載機からの機銃掃射を受け亡くなったのでした。多分母は、背後から撃たれ腰のあたりに命中したので即死であったろうと思います。私は、幸いにも小さかったので右の足の親指を負傷しただけで九死に一生を得たのでした。母は、私を背負っていたので他の人達よりも逃げ遅れ

たのでしょう。その時亡くなったのは母一人であったそうです。母が亡くなる 22 日前に父の戦死の知らせが届いたばかりでしたので、私は相次ぎ両親を亡くし戦争孤児となってしまったのです。その後叔母夫婦の家族で東京の大空襲で焼けだされ市原市の古市場の実家へと引越して来たのです。実家は農業をしていましたので住む所は、なんとか確保は出来た様です。一度に 10 人家族になり、又離れには叔母の妹家族が引越して来たので大変な人数になりましたが、農業をしておりましたので、食料は何とか調達出来たようです。私



母安達むつ



は、母を亡くしたので乳が足らなくなり山羊の乳で育てられたそうです。小さい時から乳の飲みっぷりはよかったと聞いております。それでこんなに大きくなったんだと山羊に感謝しております。当時はまだ農業は機械化されておらず、すべて手作業でやらなくてはなりませんので、小学校低学年の頃から大人同様に手伝わされました。おかげで手と足だけは大きくなりました。

又小学生の時の記憶では、学校に行くと両親がいないばかりにいつもいじめにあって学校に行く事が苦痛でした。そんな苦しみをだれにも話す事が出来ず、子供心ながら悩みました。

そんな日々でありましたが、お彼岸やお盆になると母親の姉が墓参りに来てくれ、お菓子や学用品等をいただき、優しくかわいがられた事が自分の母親と重なる所があったかもしれません、子供ながらに鮮明に記憶しておりました。

幸いにして24歳にして結婚。現在3人の子供と二人の孫にも恵まれ幸せに生活していますが、戦争の傷は一生癒える事がありません。自分が体験した辛い事を二度と子供や孫にはさせたくありません。全国には戦争の為に何百万人という尊い命が奪われ、そのかげに又多くの方々が苦しみを背負って生きておられます。私たちはその尊い命に守られて現在生かされておるのだと自覚し、これからも命ある限り子供や孫達にこの地球上から一日も早く悲惨な戦争がなくなる様に伝えて行かなければなりません。戦争は反対です。



### 連絡先

〒260-0852 千葉市中央区村田町 760-1、安達福太郎

### 資料1 父の遺品：勲章・印鑑

昭和15年4月29日、陸軍1等兵として支那事変における功績により勲8等白色桐葉章及び金200円が授けられている。

資料 2 父の遺品：補充兵手帳



「補充兵手帳」の記述

<p>一、此手帳は勅諭、勅語、詔法等軍人の常に服膺すへき事項各自の履歴並に服役上須要なる心得を記載しあるを以て丁寧に保管すへき事。</p> <p>二、常に奉公袋に入れ置き召集、簡閲臨時、在郷軍人會の會合其他特に在郷軍人會分會長の指示ある場合には此手帳を携帯すへき事。</p> <p>三、補充兵證書は此手帳の表紙裏面に四ツ折にして挿入する事。</p> <p>四、此手帳を破損紛失したるときは分會長に届出すへき事。</p>	
本籍地	千葉県市原市野間村
現住地	千葉県市原市野間村
職業	農
徴集年	年
生年月日	年 月 日
氏名	安達保夫
兵種	補充兵
服役年	年 月 日
在郷軍人會入會年月日	年 月 日
十二年度自昭和	十二年
四ヶ月至	年 月 日

履 歴	履 歴
<p>昭和十一年九月八日第二年度 補充兵教育檢閲済</p> <p>昭和十二年八月八日第三年度 補充兵教育檢閲済</p> <p>昭和十三年簡閲點呼済</p>	<p>昭和十一年八月十九日ヨリ廿一日迄 (20時間) 補充兵教育ヲ受ク 今井?㊤</p> <p>昭和十年簡閲點呼済</p> <p>昭和十一年九月九日ヨリ十日マデ、〇〇時〇〇分 補充兵教育ヲ受ク 今井?㊤</p> <p>昭和十一年九月二十三日、二十四日、二十五日、二十六日、二十七日、二十八日、二十九日、三十日、十月一日、十月二日、十月三日、十月四日、十月五日、十月六日、十月七日、十月八日、十月九日、十月十日、十月十一日、十月十二日、十月十三日、十月十四日、十月十五日、十月十六日、十月十七日、十月十八日、十月十九日、十月二十日、十月二十一日、十月二十二日、十月二十三日、十月二十四日、十月二十五日、十月二十六日、十月二十七日、十月二十八日、十月二十九日、十月三十日、十一月一日、十一月二日、十一月三日、十一月四日、十一月五日、十一月六日、十一月七日、十一月八日、十一月九日、十一月十日、十一月十一日、十一月十二日、十一月十三日、十一月十四日、十一月十五日、十一月十六日、十一月十七日、十一月十八日、十一月十九日、十一月二十日、十一月二十一日、十一月二十二日、十一月二十三日、十一月二十四日、十一月二十五日、十一月二十六日、十一月二十七日、十一月二十八日、十一月二十九日、十一月三十日、十二月一日、十二月二日、十二月三日、十二月四日、十二月五日、十二月六日、十二月七日、十二月八日、十二月九日、十二月十日、十二月十一日、十二月十二日、十二月十三日、十二月十四日、十二月十五日、十二月十六日、十二月十七日、十二月十八日、十二月十九日、十二月二十日、十二月二十一日、十二月二十二日、十二月二十三日、十二月二十四日、十二月二十五日、十二月二十六日、十二月二十七日、十二月二十八日、十二月二十九日、十二月三十日</p>

注 見やすいように漢数字をアラビア数にしている。ここは漢字とカタカナで書かれており平仮名はない。

本籍地：千葉県市原郡菊間村古市場

職業：農

氏名：安達保夫

生年月日：大正3年8月1日

兵種：服役年〇

履歴昭和10年8月19日カラ21日迄 (20時間)

補充兵教育〇〇〇教育ヲ受ク 今井?㊤

昭和10年簡閲點呼済 (ゴム印)

昭和10年9月27日ヨリ10月1日マデ、〇〇時〇〇分補充兵教育ヲ受ク

10月〇〇検閲？略？修了〇亥？日

昭和11年8月22日、24日、27日、28日及び9月3日、5日、6日間、40時間  
補充兵教育を受ク

昭和11年9月6日第2度補充兵教育検閲済 ○㊥

昭和12年8月28日第3度補充兵教育検閲済

昭和13年8月21日ヨリ28日迄55時間補充兵教育を受ク 宇井㊥

昭和13年度点呼予習教育を受ク 宇井㊥

昭和13年簡閲点呼済（ゴム印）

注1 ここで記述が終わっている。彼は昭和20年に中国戦線で死亡しているが、その記述がない。

注2 5月8日空襲について他の情報

稲葉ふく19歳。昭和25年5月8日、艦載機が蘇我を襲いました。服部義弘さんの話。西線の踏切を渡った所で、小型機が空いっぱいやってきました。・・・汽車を狙って小型爆弾が2発投下されました。・・・茅葺屋根に弾が突き刺さって発火したのです。

# 父は中国で 戦死、母は空 襲で死亡、戦 災孤児とな る

2015.9.28

安達福太郎様

伊藤章夫

お元気ですか。除幕式では、大きな役割をしていただきました。今年の70年に向けて市民運動が成功しました。

先週、9月下旬、船橋市内で「第21回平和のための戦争展ちば」開催されま

した。残念ながらあなたのパネルを運ぶことができませんでした。このパネルは千葉市で行うことを想定していました。そこで、模造紙に貼りつける展示物にしたいと思います。パネルの展示物をなるべく使おうと思うのですが、映したいものの位置が悪いとパソコンにうまく保存できません。やむなく一度写真に撮ってそれからパソコンに移し替えています。

森大死さんも同じ事情です。これからは運搬しやすいように模造紙に貼り付けます。

については、模造紙に移行するにあたって、次の事を付けたすと展示物はさらによくなると思います。

1. 母上の話
2. 父上の話、中国のどこで亡くなったのか。地図がありますか。
3. 父母の結婚式に場所、日時、新婚生活の場所
4. 孤児故にいじめがあったと書いていますが、高校進学、大学進学、就職、結婚でまずいことがあれば書いてください。書きたくないことは無理にお願いしません。
5. あなたの少年時代、青年、成人の思い出や写真を小さく入れたいです。
6. あなたの主張の中に、戦後政府が補償してこなかったことを指摘しながら、補償法が必要だと主張してくれませんか。金銭でなく反省、償いです。
7. 模造紙のパネルを更新するとパネルの展示はお返しします。いつかどこかで内容の相談をしませんか。その時に展示パネルを返却します。
8. その他  
他にも資料がありますか。

安達福太郎証言 2014.6.20,一部訂正 2015.9.28

〒260-0852 千葉市中央区村田町 760-1

初めまして、私の名前は安達福太郎と申します。生年月日は昭和19年（1944年）11月12日生まれです。

父は32歳、母は25歳で亡くなりました。父は自分が生まれる前に支那事変に補充兵として出征しておりましたので私の顔を見ていないのです。

母は、まだ生まれて 6 ヶ月足らずの私を背負って出征兵士を見送る為、浜野の駅まで行った帰りに突然現れた艦載機からの機銃掃射を受け亡くなったのでした。多分母は、背後から撃たれ腰のあたりに命中したので即死であったろうと思います。私は、幸いにも小さかったので右の足の親指を負傷しただけで九死に一生を得たのでした。母は、私を背負っていたので他の人達よりも逃げ遅れたのでしょう。その時亡くなったのは母一人であったそうです。母が亡くなる 22 日前に父の戦死の知らせが届いたばかりでしたので、私は相次ぎ両親を亡くし戦争孤児となってしまったのです。その後叔母夫婦の家族で東京の大空襲で焼けだされ市原市の古市場の実家へと引越して来たのです。実家は農業をしていましたので住む所はなんとか確保は出来た様です。一度に 10 人家族になり、又離れには叔母の妹家族が引越して来たので大変な人数になりましたが、農業をしておりますので、食料は何とか調達出来たようです。私は、母を亡くしたので乳が足らなくなり山羊の乳で育てられたそうです。小さい時から乳の飲みっぷりはよかったと聞いております。それでこんなに大きくなったんだと山羊に感謝しております。当時はまだ農業は機械化されておらず、すべて手作業でやらなくてはなりませんので、小学校低学年の頃から大人同様に手伝わされました。おかげで手と足だけは大きくなりました。

又小学生の時の記憶では、学校に行くと両親がいないばかりにいつもいじめにあって学校に行く事が苦痛でした。そんな苦しみをだれにも話す事が出来ず、子供心ながら悩みました。

そんな日々でありましたが、お彼岸やお盆になると母親の姉が墓参りに来てくれ、お菓子や学用品等をいただき、優しくかわいがられた事が自分の母親と重なる所があったかもしれません、子供ながらに鮮明に記憶しておりました。

幸いにして 24 歳にして結婚。現在 3 人の子供と二人の孫にも恵まれ幸せに生活していますが、戦争の傷は一生癒える事が事はありません。自分が体験した辛い事を二度と子供や孫にはさせたくありません。全国には戦争の為に何百万人という尊い命が奪われ、そのかげに又多くの方々が苦しみを背負って生きておられます。私たちはその尊い命に守られて現在生かされておるのだと自覚し、これからも命ある限り子供や孫達にこの地球上から一日も早く悲惨な戦争がなくなる様に伝えて行かなければなりません。戦争は反対です。記録者伊藤章夫